

地下街など閉鎖空間での普及作業の際、作業機の排ガスが大問題になります。電動パワーユニット駆動

QP-2TeGX は『排ガス発生ゼロ』『騒音ゼロ』により室内や地下施設などの閉鎖空間、夜間・住宅密集地での作業に活躍します。また熟練者がいなくても運転操作が簡単な為、市町村の防災用装備品としてもお奨めです。

\* QP-2TeGX のカタログ⇒

<https://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2024/12/PDS002412.pdf>

◀◆水源から結構離れた現場に水を送りたい！・・・【QP-T405SLT/QP-T405SLTD】▶

以前訪れた寝屋川消防署の話では、阪神淡路大震災で起きた火災の消火活動の際、取水地となった淀川から火災現場まで距離があり消火用水の確保に多大なる労力を要したと聞きました。QP-T405SLT は、500m 遠方へ毎分ドラム缶 2 本強（約 400ℓ）を！ また 60m 上方の高台にドラム缶 2 本弱を！！送水する事が可能です。

\*QP-T405SLT/QP-T405SLTD の製品ページ⇒

[QP-T405SLT | 株式会社マツサカエンジニアリング](#)

[QP-T405SLTD | 株式会社マツサカエンジニアリング](#)

ご興味ある製品については、担当営業まで気軽に問合せください！！

（営業部 福澤記）

☆☆—————☆☆

MEC 技術部発信：夏のエンジン、思わぬトラブルにご注意！

☆☆—————☆☆

「水は出ているけど、なんだかエンジンの調子が悪い…」

それ実は、エンジンの夏バテかもしれません。

近年は 40℃を超える日も珍しくなく、過酷な夏は人だけでなくエンジンにとっても試練です。

直射日光下や高温の農地ではエンジンへの熱負荷が高まります。

だからこそ、安定した運転を支えるために熱対策やメンテナンスが重要なポイントとなります。

特に空冷エンジンでは、熱・泥・ほこり・乾燥に要注意です。

夏のエンジンは「熱」との戦い、よくあるトラブルを 4 つにまとめました。

◀①クランクケース冷却フィンの詰まり▶

空冷エンジンはファンによって空気の流れを作り出し、シリンダ周辺のシュラウドや冷却フィンを通過させることで冷却しています。

フィンに土汚れが付着したままですと、空気との接触面積が小さくなり、熱が逃げにくくなってエンジンへの負担が大きくなることも。

➡ 作業前にサッと汚れを落として、放熱しやすい状態をキープ！

◀②エアクリーナーの目詰まり▶

夏は乾いた土やほこりが舞いやすく、フィルターに汚れが付きやすくなります。

きれいな状態を保つことで、エンジン本来のパワーを発揮しやすくなります。

➡ 定期的に清掃、必要なら交換。エンジンも気持ちよく深呼吸！

◀③燃料・オイルの劣化▶

夏場は気温の上昇により、燃料やオイルの劣化が進みやすい時期です。

日頃のチェックが、エンジンの安定したパフォーマンス維持につながります。

⇒ 作業前にサッと確認。チェックを習慣にしてトラブルを先回り！

#### ≪④直射日光による熱負荷≫

高温環境ではエンジンへの負荷が大きくなります。

普段以上に燃料・オイル・冷却部の状態を確認し、安心して作業できる状態を保ちましょう。

⇒ ひと手間の点検が、安定した運転につながります！

たった数分の点検が夏場の思わぬトラブルを未然に防ぎます。

点検チェックリストを参考に熱対策をしっかり行い、この夏も安心してお使いください。

★チェックリスト URL はこちら：

<https://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2026/06/engine-trouble.pdf>

（技術部 林記）

☆☆—————☆☆

MEC 資材管理部発信：ナフサショック襲来！？ポンプ作りへの影響は！？

—————☆☆

6/9 記、2 月末から始まったイラン戦争ですが、現地・周辺地域の人々の安全と平和、そして早急な終結を願うばかりです。一方、私たち日本にもその影響として原油・石油由来のナフサが入ってこない！と皆さんもニュースで幾度となくご覧になったのではないのでしょうか？

ナフサ由来の石油化学製品は本当に身の回りにあふれており、ここ MEC のポンプ製造現場においても

様々なモノに影響が出ています。少し、ポンプ部品とナフサ由来製品との関連を説明してみましょう。

大きな流れとしては川上から「ナフサ」⇒「石油化学基礎製品（エチレン・ブタジエン等）」⇒「石油化学誘導製品（ポリエチレン・ブタジエンゴム）」⇒「加工」⇒「最終製品（ポンプ部品）」となります。

一旦、ここで簡単なフロー図を見て貰いましょう。

<https://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2026/06/naphtha.pdf>

図にも示したように「ストレーナー」「塗装されたフレーム等」「NBR 製の O リングやパッキン」

「シール類」がナフサを原料とする部品です。さて、これらの部品が現時点でどれくらい影響がでているか…、ワースト 3 で表してみました。

ワースト①：塗装されたフレーム・エンジン台等⇒塗装前にシンナーで脱脂するのですが、そのシンナーが大幅値上げ…そして品不足！

ワースト②：NBR 製の O リング・パッキン⇒今のところ調達に問題はないものの、何せポンプのいたるところに使われる部品なので心配…。

ワースト③：シール類⇒シールの接着剤は溶剤や樹脂で作られますが、これらも品不足、近く入手が難しくなってきました。

はあ…、調達が仕事の私たち資材管理部としてはため息（と冷や汗）が出るばかりです…。しかし、そこは今まで供給者の皆様と培ってきた信頼関係と情報網！週に何度も連絡を取りながら皆様にご尽力頂き影響は最小限度にとどまり、生産にも大きな影響を与えることなく凌いでおります。今回このナフサショックでは、普段手に入る部品がどういう製造工程を経て作られどこから供給されているのか知識にもなり、そして一番は

「供給様との信頼ネットワーク構築」が大事であると教訓になりました。

長々となりましたが、これからもどんな変化にも対応できる調達のプロとして頑張っていきたいと思います！

（資材管理部 中瀬記）

☆☆—————☆☆

MEC 四方山話：“命を守る基準”「熱中症特別警戒アラート」への備えは万全ですか？

—————☆☆

雨が平年より少なく、水不足が心配される日が続いています。一方で、今年も「熱中症」への警戒が欠かせない季節がやってきました。近年の厳しい暑さを受け、気象庁では今年から、最高気温が 40℃以上となる極めて危険な暑さを示す新しい予報用語として「酷暑日」が追加されています。

また、昨年（2025 年）からは「熱中症特別警戒アラート」の本格運用が始まりました。これは、熱中症による死亡者が発生するおそれがあるほどの極端な暑さが予測される際に発表されるものです。こうした状況を踏まえると、現場で対応ルールをしっかりと定着させることが、これまで以上に重要になっています。

当社でも昨年より、熱中症対策の手引きを作成し、現場各所に掲示するなど、対策の強化を進めてきました。

- 熱中症対策責任者の設置
- 熱中症を疑う症状の掲示
- 熱中症処置フローの掲示
- WBGT 指標ランクの掲示

今年も 6 月から測定器を準備し、WBGT（暑さ指数）の測定を行っています。日々の作業の中で、熱中症を疑う症状が出ていないかをお互いに気かけ、早めに気づき、予防につなげる取り組みを続けています。WBGT 指数が規定を上回る可能性がある場合には、特に指数が高くなる時間帯に臨時休憩を取るかどうかを判断し、無理のない作業環境づくりに努めています。

休憩時間の確保に加え、水分・塩分補給の推奨、空調服の活用など、さまざまな角度から熱中症予防に取り組んでいます。

これからご紹介するのは、こうした熱中症対策の取り組みの様子です。

<https://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2026/06/heatstroke-prevention.pdf>

主に対策しているのは現業職（製造部・資材管理部）の皆さんです。昨年から製造部で導入した空調服は、「暑い日の作業も快適！」と着用者から非常に好評です。出荷作業はどうしても屋外での作業が多くなりますが、空調服に大きく助けられています。

資材管理部の金属加工工程では、数年前から空調服を導入しています。夏の暑い日の溶接作業は非常に過酷ですが、空調服のおかげでこちらも快適に作業できています。

また、昨年から塩分タブレットの支給を始めました。食堂や休憩スペースに常備し誰でも自由に補給できるようにしています。今年は 3 種類の味を用意し“推し味”を見つけてもらうことで、少しでも夏場を楽しく乗り越えていただけるよう工夫しています。

会社の安全を守り、社員の命を守ることは、私たち総務にとって最も大切な責務です。総務と現場一丸となって、今年の夏も安心して働ける環境づくりを進めていきます。

（総務経理部 中山記 & 製造部 出屋敷記）

では、今日はここまで！！

最後までお付き合いいただき、誠に有難うございました。  
また、次回も宜しくお願い申し上げます。



○メール配信停止をご希望の方はこちらまでご連絡ください。  
(配信停止以外のお問い合わせは、担当営業までお願い致します)

[info@qp-pump.com](mailto:info@qp-pump.com)

○配信元：株式会社マツサカエンジニアリング  
<https://www.qp-pump.com/>

東京本社  
東京都千代田区神田松永町 2 3 番  
TEL : 03-3257-6130  
FAX : 03-3257-6129

工 場  
三重県多気郡多気町野中 2 1 5 5  
TEL : 0598-39-3211  
FAX : 0598-39-3131

発行/(株)マツサカエンジニアリング 営業部

